

体育授業における主体性を引き出す授業づくり

— 教師から生徒への相互作用行動に着目して —

学籍番号 169972

氏名 植竹 未咲

主指導教官 中西 修一

1. 研究の背景と目的

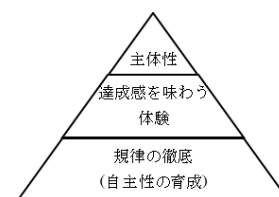
現在の学校体育での課題として、運動する子とそうでない子どもの二極化傾向や、体力の低下傾向には歯止めが掛かっているものの、依然として低い状況であることが指摘されている。(文部科学省 2017)また、筆者の学生生活や教育実習の経験から、高校体育での生徒の運動経験、能力、興味、関心等の多様化を実感した。

これらの体育の課題をふまえ、生徒が体育授業において、生徒の持つ主体性を引き出すことで、体育科の究極の目標である「明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる」(文部科学省 2009)ことができ、卒業後の生徒の自己実現を支えることができるのではないかと考え、本研究テーマを設定した。なお、【与えられたものであっても自分なりの意味づけを行ったり、自分なりの工夫を加えたりするなど、自ら考え行動すること】を主体性の定義として置き、実践研究を進めた。

2. 本実践研究を通じた成果と課題

本実践研究を通じて得た成果と課題について、各実習に分けて説明する。

基本学校実習Ⅰは、実習校における主体性を引き出す構造(右図)を見出した。A校体育科では、協調性・責任感の醸成、規律を守る姿勢づくりに取り組んでいる。そして、行事や日々の授業の中で「達成感を味わう体験」を積み重ね、とりわけ体育祭で最高学年として「主体性」を発揮する姿が観察できた。



これをうけ基本学校実習Ⅱでは、【「規律の徹底」「達成感を味わう体験」を意識した授業を行うことで、生徒の主体性を引き出すことができるのではないか】という仮説を立て、仮説の検証と体育に対する意識調査を実施した。その結果、仮説の立証は行うことができなかった。しかし、実践を通じて生徒の体育に対する意欲には、教師の授業内の行動が大きく関係していると感じた。また意識調査から、教師の授業内の関りが、体育が苦手な生徒の体育に対しての意識に好意的に働いていることが分かった。

基本学校実習から発展課題実習Ⅰでは、【体育授業において主体性を引き出すには、教

師の授業内の働きかけ、主に相互作用行動が関わっているのではないか】という仮説の検証を試みた。仮説の検証にあたっては、相互作用行動シートの作成や、授業のビデオ分析を行い、自身の授業内行動を分析した。授業実践経験の少ない筆者にとって、相互作用行動シートの作成は授業内の相互作用行動を明確にするうえで大変有意義であった。しかし、相互作用行動と生徒の主体性の関わりを明らかにすることが出来なかった。今回の実践では授業内の教師行動の割合に着目し、相互作用行動シートによる相互作用行動の確保など、量的なアプローチを行った。しかし、自分が行った相互作用行動がどのように生徒に作用しているか、またどのような相互作用行動が生徒の主体性を引き出すのか、相互作用行動の内容分析などの質的な部分を検討する必要があると考える。

発展課題実習Ⅱでは、【相互作用行動やその「表現のしかた」が、生徒の主体性に関わりがあるのではないか】を仮説とし実践を行った。仮説の検証にあたっては、相互作用行動シートの活用を継続し、授業内の相互作用行動のみに着目することで、筆者がどのような相互作用行動を行っているのかを分析した。また、授業アンケートの中に、教師の声掛けに関する記述欄を設け、教師の相互作用行動が生徒に作用するものであったかの検証も行った。その結果、「主体性」を測る項目に、相互作用行動は「肯定的フィードバック」、「表現のしかた」では「伝達性」「共感性」が有意な相関や相関傾向を示した。これらを受け、仮説である【相互作用行動やその「表現のしかた」が、生徒の主体性に関わりがあるのではないか】という仮説は立証することができたと筆者は考える。

3. 今後の展望

今後の展望としては、本実践の成果を授業づくりに活かすことである。授業づくりに活かす点は大きく分けて2点ある。まず1点目は、運動場を増やした授業づくりを行うことである。左図で示した主体性を引き出す構造を基に本実践を振り返ると、土台である「規律の徹底」を行うのは、準備運動・集合・号令などの運動以外の活動の場面が多かった。また、教師行動としては「矯正的フィードバック」や、主体性に負の相関を示した「励まし」を多く行っていた。一方で、主体性と正の有意な相関を示した「肯定的フィードバック」や「伝達性」「共感性」のあるフィードバックを多く行っていたのは、運動場面であった。運動場面で正の有意な相関を示す教師行動を行うことで、生徒の「達成感を味わう体験」につながり、「主体性」を引き出すことができたのではないかと考える。以上のことから、運動場面に焦点を当てた授業づくりを行うことが生徒の主体性を引き出す授業づくりに繋がると考える。

2点目は、教師行動に留まらず、生徒同士の相互作用行動へと発展させる環境づくりを行うことである。そのために、授業準備の役割分担や列移動のリーダーを決めるなど、授業運営を生徒に任せる場面を設定し、役割を担っている生徒を中心に生徒同士で声を掛けやすい環境の設定が必要である。また、相互作用行動シートを教材研究に活用し、「言語内容」を工夫したフィードバックを行うことで声掛けのモデルを示し、生徒同士で相互作用行動を行うことにつなげたい。このような環境づくりを行うなかで、「仲間と協力する(項目2)」に負の有意な相関を示していた「発問」「励まし」を、生徒の行動として取り入れる方法など、より主体的に生徒が活動できる授業づくりを今後目指していきたい。